



(訳・只見中・福地)

クリスマスとイースターの次に私が好きな行事です。小・中学生が今以上に海外の行事に興味を持ってくれたらいいなあと思っています。

こんなにも早く寒くなることを忘れていました。10日間ほど海外に行っており、10℃も気温が違う！信じられない！でも、日本に来て1年、ようやく秋は好きな季節といえるようになりました。山々が紅葉するのを見たり、涼しくなった日々を楽しんでいます。景色も日を追うごとにきれいに色づいています。でも、どうしてもカメムシは好

Anna先生のLife in JAPAN Vol.10

■Anna・George
 ・1987年生まれ。英国ノーフォーク出身。
 ・2010年8月から只見町英語指導助手。
 ・小学校と中学校で語学の指導を行います。



きになれません！町民のみさん、カメムシを嫌がっているかと思えます。県内のほかの場所でも働いているALTの友達はカメムシを知らないのです、あのニオイに悩まされていないのです。

10月15日に只見中の文化祭がありました。とても楽しめたし、生徒が放課後、一生懸命に準備や練習をしていたので、うまくいったんだと思います。16日には、元ミス・ユニバース・ジャパンでオペラ歌手の小川里美さんが中学校に来てくださいました。彼女の歌声は本当に素晴らしいものでした。彼女が数カ国語を話せることに大変感銘を受けました。彼女の歌声は、聞いている人を幸せな気持ちにしてくれると思います。

10月の有名な行事といえば、ハロウィンです。小学校で楽しいハロウインの授業をしました。子どもたちはハロウインの仮装をすることを気に入ることでしよう。ハロウインは

広報ただみ診療所

朝日診療所

医師 湯田孝之

『子どもが口に何かをくわえていたら』

皆さんは1999年の『幼児割り箸死事件』をご存知でしょうか。お祭りで綿菓子割り箸をくわえて走っていた4歳の幼児が転倒し、割り箸がのどに突き刺さった事件です。大病院に救急搬送され、

世界的にも報告例のない非常にいたたまれないケースでした。

その際は意識は正常で当直医の診断で処置後帰宅となりましたが、その後自宅にて心肺停止状態となり再度救急搬送されましたが残念ながら救命には至りませんでした。初診時、再診時、加えて検死での警察医も含めた複数の医師の診察でも、のどに異物は発見されませんでした。司法解剖で初めて、のどの奥深くに小脳まで達する割り箸の破片が発見され、これが死因とされました。全経過で、医師に割り箸が折れていたことは知らされていませんでした。後日、

この事件を機に日本の救急医療は変化します。善意に基づく診療であっても、結果が思わしくなければ刑事責任を問われる危惧から、全国で専門外診療や救急医療からの撤退という事態が起こりました。また、同様の症例には全例CT(断層写真)をとることが当たり前のようになりました。この外傷は子どもに多く、昨今テレビ等でよく言われるように子どもは大人より放射線を浴びた際の影響が大きいといわれている上、CTはレントゲンよりはるかに大きい放射線被曝量です。未来ある子どもにはできるだけ無用な放射線を浴びせたくない、ただCTを撮っていないと、

CTを撮影する機会が増えていきます。このような事故から子どもを守るには、何といっても、ものをくわえて歩くことをやめさせる『予防』が一番です。原因としては、おもちゃ・歯ブラシ・割り箸・鉛筆などが多いといわれています。しついでやめさせることは難しいので、周囲の大人が注意することが大事です。また、大人であつても箸や歯ブラシの使用後に後ろからぶつかられたらすれば同様の事故を招く恐れがあります。事故が起こってしまった場合は、受診した医療機関に『のどに刺さったものを持参』してもらい『折れたり破損していないか』を必ず医師に申告してください。先述の脳障害の他には傷口から菌が入り膿がたまる膿瘍や血管の損傷など入院治療が必要となる合併症も報告されています。もし割り箸が折れていることを誰かが話していたら、何か違っていたかも知れません。予防できうる事故は周囲の大人が気を配り、大切な子どもたちを守っていきましょう。

初診の当直医は業務上過失致死の容疑で書類送検され、刑事・民事訴訟となりました。裁判の結果は医師の過失は認められず、延命の可能性は認められなかったとの判断で無罪が確定しました。同病院の過去の同様の症例でも、重篤な状態に至った方はおらず、

自分の家族はどうなってしまうんだ：というジレンマと、明日は自分が犯罪者になるかもしれないという不安を抱えつつ診療せざるをえないために、日本ではごく軽傷例でも